

高校生が防災を体験的に学ぶ —津久井高校『防災ゼミ』を支援—

自衛隊神奈川地方協力本部相模原地域事務所（所長 栗野晃光3等陸佐）は、神奈川県立津久井高校（相模原市）で行われた「総合的な探究の時間」の授業『防災ゼミ』を支援した。

同ゼミは、地域課題をテーマに生徒が主体的に学ぶ探究活動の一環として実施され、防災を切り口に、災害への備えや対応について理解を深めることを目的としている。

第1回は11月11日（火）に実施し、防災講話が行われた。令和元年の台風第19号、令和6年の能登半島地震及び奥能登豪雨における自衛隊の災害派遣活動が紹介され、災害は身近な地域でも起こり得ることや、平時からの備えの重要性について説明が行われた。あわせて、人命救助から生活支援まで多岐にわたる自衛隊の役割について理解を促した。

第2回は12月16日（火）に実施し、体験学習が実施された。災害派遣時に使用する宿営用天幕の設営体験のほか、ロープワーク、止血方法、応急担架の取扱いなどについて実習が行われ、生徒は災害時に役立つ基本的な技能を体験的に学んだ。

参加した生徒からは、「自衛隊の活動の幅広さを知ることができた」「防災について改めて考えるきっかけになった」といった声が聞かれ、担当教員からも「実践的で有意義な学習になった」との感想が聞かれた。

相模原地域事務所は、「防災教育の支援を通じて、自助の意識向上とともに、自衛隊の活動に対する理解促進につなげていきたい」としている。



所長による防災講話



ロープワーク



迷彩服を活用した応急担架

航空自衛隊入間基地を見学 体験を通じて自衛隊の魅力に触れる一日

自衛隊神奈川地方協力本部平塚地域事務所（所長 兒玉憲幸1等陸尉）は、12月1日（月）、中高一貫校である自修館中等教育学校の希望者を対象とした自衛隊セミナーとして、航空自衛隊入間基地見学を実施した。

当日は、生徒26名と引率教員1名が参加し、各種見学や体験を通じて航空自衛隊の活動を間近で体感する一日となった。

はじめに、災害対応などで活躍する警備犬の訓練風景を見学した。ハンドラーの指示に俊敏かつ正確に反応する警備犬の動きに、生徒たちは「すごい迫力」「本当に賢い」と驚きの声を上げていた。

続いて、C-2輸送機やT-4練習機について説明を受け、航空自衛隊の任務や航空機の役割への理解を深めた。その後、コックピットへ体験搭乗を行い、計器や操縦桿に実際に触れながら、パイロットの視点を体感した生徒たちは目を輝かせていた。

昼食には、基地名物の「マグロ丼」が提供され、「基地でこのような食事が食べられるとは思わなかった」と、参加者は和やかな雰囲気の中で食事を楽しんだ。

今回の基地見学を通じて、自衛隊の活動に関心を高める生徒が多く、「将来の選択肢の一つとして考えたい」といった前向きな声が多く聞かれた。

平塚地域事務所は、「今後もこのような体験を通じて、若い世代に自衛隊の役割や魅力を伝えていきたい」としている。

